

# インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム 令和3年度の活動報告

日野伸一<sup>1</sup>、藤井乙貴<sup>2</sup>

九州大学名誉教授<sup>1</sup>、西日本技術開発株式会社<sup>2</sup>

概要： 現在、我が国のインフラは急速な老朽化が進み、維持管理費の増大、将来的な担い手不足等様々な問題が生じている。そこで、九州地方のインフラメンテナンスにおいて、民間企業の多様な技術に対し、地方自治体のニーズとのマッチングを行い、課題解決策を見出すことが本フォーラムの目的である。本年度は新型コロナウイルスの影響により活動の制約がある中、ピッチイベントの開催、実務経験豊富なベテラン技術者によるよろず相談「テックシニアーズ」が本格始動し、インフラメンテナンスに関する知名度・理解の向上を図った。

## 1. はじめに

高度経済成長期に集中的に整備された我が国のインフラは、老朽化が今後急速的に進むことが懸念されており、人口減少や財政的制約がますます厳しくなる中で、いかにインフラの維持管理・更新に取り組んでいくかが喫緊の課題となっている。特に、若い世代の人口流出に悩む地方自治体においては、インフラの維持管理を支える建設産業や若い担い手の確保等、社会的な問題として取り組む必要性が求められている。

このような背景から、インフラメンテナンスに産官学民が一体となって取り組む体制をつくり課題解決やイノベーション推進を図るプラットフォームとして、平成28年11月にインフラ

メンテナンス国民会議が設立された。具体的な取組み目標として、①革新的技術の発掘と社会実装、②企業等の連携の促進、③地方自治体への支援、④インフラメンテナンスの理念の普及、⑤インフラメンテナンスへの市民参画の推進、の5項目が掲げられている。

それを受けて、インフラメンテナンス国民会議の公認フォーラムとして、「インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム」(以下、九州フォーラムと称する)を平成30年1月17日に設立し、現在に至る。

本稿では、九州フォーラムの令和3年度における活動状況を報告する。

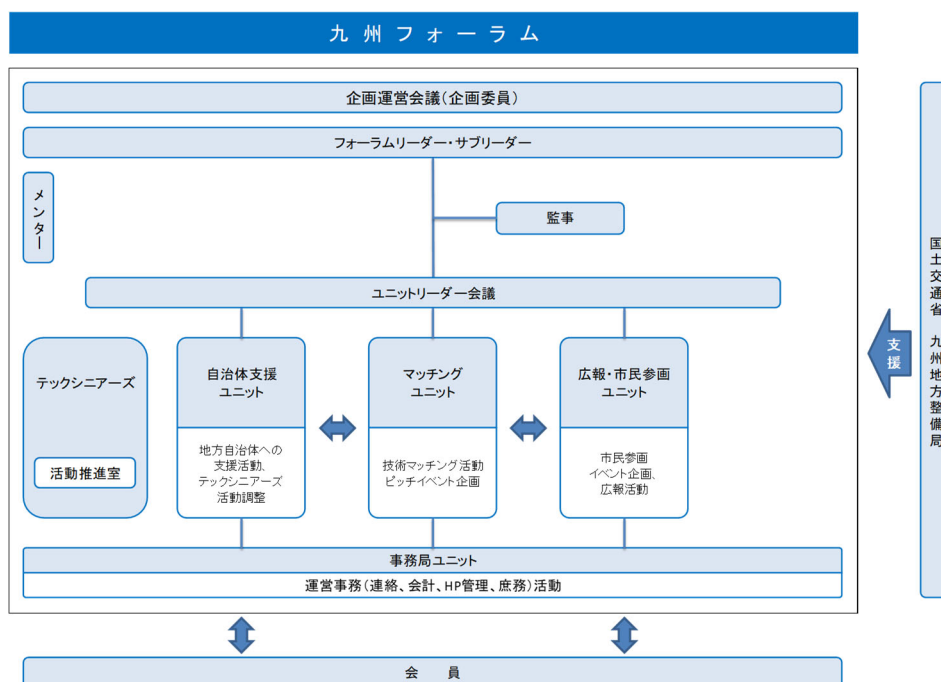


図-1 令和3年度 九州フォーラム組織図

## 2. 九州フォーラムの組織体制

九州フォーラムでは、産官学民の連携を軸にして、九州におけるインフラメンテナンスに関する自治体支援や技術開発の推進に向けた情報交換、ベストプラクティスの水平展開、取り組みのマッチングによる課題解決策の構築などについて、活動を展開している。

九州フォーラムの会員は、インフラメンテナンス国民会議に会員登録された九州在住の企業会員、行政会員および個人会員から構成される。九州フォーラムの運営組織構成を図-1に示す。運営体制の構築にあたり、九州フォーラムの活動に熱意とボランティア精神をもった会員を募り、フォーラムリーダー・サブリーダー及び事務局を含む企画運営会議が設置され、現在の企画運営会議のメンバーは、学識経験者のメンバーも含め、51名、35機関で構成されている。九州フォーラムとしての活動を活発に推進するため、企画運営会議の中に、自治体支援、マッチング、広報・市民参画の各ユニットを設けて業務を分担する体制を構築するとともに、国土交通省九州地方整備局と緊密に連携しながら運営している。

さらに、令和2年4月からは自治体支援の一助となることを目的として、現役を卒業した実務経験豊富な技術者達によるインフラメンテナンスに関するよろず相談窓口として、「テクシニアーズ」<sup>1)</sup>を新たに設立した。

また、本フォーラムへの九州地方の自治体(全240自治体)の参画状況について、今年度も参画自治体が約8割となる189自治体(令和4年4月28日時点)<sup>2)</sup>まで増加し、特に、令和元年度にピッチイベントを実施した大分県、令和4年度開催予定の長崎県については、ほぼ全ての自治体が参画しており、地方開催のピッチイベントによる効果が確認された。

表-1 自治体参画状況 (R4.4時点)

	自治体数 (県含む)	国民会議参画		備考
		自治体数	参画率	
福岡県	61	49	80.3%	
佐賀県	21	13	61.9%	
長崎県	22	21	95.5%	
熊本県	46	41	89.1%	
大分県	19	19	100.0%	
宮崎県	27	16	59.3%	
鹿児島県	44	30	68.2%	
合計	240	189	78.8%	
全国(参考)	1,771	1,121	63.3%	

**第5回ピッチイベント**  
**インフラDXが創り出す**  
**安全・安心・豊かな未来社会**

主催：インフラメンテナンス国民会議 九州フォーラム

「インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム」は、公共インフラの維持管理に関する自治体支援、技術開発推進に向けた情報交換やベストプラクティスの水平展開及び取組のマッチング等により、様々な課題の解決を目指し、産・学・官・民からなる活動組織です。平成30年1月17日設立以来3年半にわたり、九州フォーラムでは、「自治体からのニーズ」と「民間からのシーズ」のマッチングによる課題解決に取り組んでまいりました。今回のフォーラムでは、インフラDX化に向けての取り組みについて幅広く議論します。

参加費 無料  
 会場参加：先着200名  
 WEB参加：先着500名  
 ※チラシ裏面に記載のURL  
 かQRコードから九州フォーラムへアクセスし、参加申込みください

DATE 2021年10月26日(火)  
 13:00 ~ 17:00  
 PLACE 福岡国際会議場  
 〒812-0032  
 福岡県福岡市博多区石城町2-1

当イベントはC P D, CPDS  
 プログラムに認定される予定です

**登壇者**

**木村 康博**  
 国土交通省 総合政策局  
 公共事業企画調整課  
 事業振興調整官  
 持続可能なインフラメンテナンスの実現に向け、「予防保全」への本格転換、新技術・普及促進手法の普及促進など、国土交通省においてインフラ老朽化対策の推進に取り組むとともに、インフラメンテナンス国民会議では、理念の普及・課題の解決及びイノベーションの推進を図り、活力ある社会の維持に向けた取り組みの総合的な役割を担う。

**杉本 直也**  
 静岡県 交通基盤部 政策管理課  
 建設政策課  
 イノベーション推進班 班長  
 最先端を走り、今もなお挑戦を続ける静岡県イノベーションを牽引  
 ・PLATEAUを先行実践し、VIRTUAL SHIZUOKAでは3D点群データをオープンソースとして公開し、様々なイノベーションを誘発している。(グッドデザイン2020受賞)  
 ・実際に3Dを活用し、インフラ管理(災害対応)にて実際に面効的な効率化を実現

**家入 龍太**  
 株式会社エイリラボ 代表取締役  
 元日経コンストラクション副編集長  
 ケンブリッジ初代編集長  
 BIM/CIMやI-Construction、ロボット・AIなどの導入により、コロナ禍対策と生産性向上の両立、地球環境保全、国際化、さらには建設DXの実現といった建設業が抱える経営課題を解決するための情報を「一歩先の視点」で発信し続ける建設ITジャーナリスト。

【後援】  
 国土交通省九州地方整備局 / (公社) 土木学会福岡支部 / (公社) 日本コンクリート工業九州支部 / (公社) 地盤工学九州支部 / (一社) 九州建築・建設工学研究会 (KASBE) / (一社) 日本建設業協会 / (一社) フォレスト / (公社) 建設業九州支部 / (一社) 九州建設労務管理協会 / (一社) 九州建設土木協会 / (一社) 国土交通省九州地方整備局 / (一社) 建設業九州支部 / (一社) 九州建設労務管理協会 / (一社) 九州建設土木協会 / (一社) 日本建設業協会 / (一社) フォレスト / (公社) 建設業九州支部 / (一社) 九州建設労務管理協会 / (一社) 九州建設土木協会 / (一社) 日本建設業協会 / (一社) 日本建設土木九州支部

図-2 第5回ピッチイベント案内



写真-1 開会の挨拶(藤巻氏)

### 3. 令和3年度の活動紹介

#### (1) 第5回ピッチイベントの開催

今年度の九州フォーラムにおけるメインの活動として、令和3年10月26日に福岡市で「第5回ピッチイベント～インフラDXが創り出す安全・安心・豊かな未来社会～」を開催した。本イベントは、昨年と同様に「九州建設技術フォーラム2021」と同時開催とした。第5回ピッチイベントの案内を図-2、実施状況を写真-1～5に示す。これまでのフォーラムでは、「自治体からのニーズ」と「民間からのシーズ」のマッチングによる課題や、近年頻発する自然災害を踏まえた「防災対策」や「市民参画」による課題解決に取り組んできたが、今回は近年話題性の高い「インフラDX」をテーマとして取り上げ、官民それぞれの立場からの取り組みを紹介した。

まず、国土交通省九州地方整備局長の藤巻浩之氏の挨拶（写真-1）に始まり、第1部では国土交通省総合政策局の木村康博氏に「国土交通省が描く建設DXを活用する未来」、静岡県交通基盤部政策管理局の杉本直也氏に「VIRTUAL SHIZUOKA が創作するワクワクする未来」、(株)イエイリ・ラボの家入龍太氏に「ロボット・AIが人間とともに働く未来のメンテ現場」と題して、それぞれ基調講演（写真-2～4）をいただいた。

続いて第2部では、「パネルディスカッション 近未来妄想会議～DXでメンテナンスをデラックスにする～」と題して、(一社)ツタワールドボクの片山英資氏による進行のもと、基調講演いただいた計3名にてパネルディスカッション（写真-5）を行った。その後、防災構造工学研究所の川神雅秀氏による「テックシニアーズ」の活動紹介、長崎大学工学研究科長の松田浩氏による「ピッチイベント長崎」の案内を行った。

今回は昨年度同様にコロナ禍の取り組みとしてWeb配信併用の開催とし、当日の参加者については会場参加が207名、Web参加が175名と

いう結果であった。今後もWeb配信を積極的に活用し、自治体を含めて多数の参加者を募れるよう取り組んでいく必要がある。



写真-2 基調講演（木村氏）



写真-3 基調講演（杉本氏）



写真-4 基調講演（家入氏）



写真-5 パネルディスカッション

## (2) テックシニアーズの活動概要

中小規模の地方自治体が取り組む公共インフラ老朽化対策は、実施にあたって、財源の確保、体制づくり（人材育成）、対策の基本計画・行動計画の策定、継続的なマネジメントの実施、その他（技術の育成、外部情報の収集）等、自治体単独では十分な対応が困難な場合が多い。

一方で、当フォーラムでは組織体制に「自治体支援ユニット」を設け、自治体が抱える様々な課題に対して、その解決に向けた支援を行うこととしているが、具体の支援活動が十分に実施できていないのが現状である。

そこで、これらの状況を踏まえ、現役を卒業した実務経験豊富な技術者達が集い、ボランティア活動の一環として地方自治体からの様々な相談に対して、中立的立場で技術アドバイスをを行い、自治体支援の一助となることを目的に「テックシニアーズ」を設立し、令和2年4月1日より活動を開始している。

令和3年度の主な活動として、専門技術者が不足する自治体を優先し基礎的内容も含めたよろず相談（佐賀県鹿島市、熊本県宇城市にて開催）を実施し、道路メンテナンス会議との共同企画（試行）として九州7県道路メンテナンス会議「第1回技術検討部会 症例検討会」に参加した。

## 4. 今後の活動予定と課題

今後も、九州フォーラムの活動として、インフラメンテナンスに関わる地方自治体支援や、オープンイノベーションによるメンテナンス技術の発掘、マッチングによる課題解決などに積極的に取り組んでいく予定である。

現在、インフラメンテナンス国民会議への地方自治体の参画状況は、全国では約6割に対して、九州では約8割と高い参画状況にある。今後も更なる会員拡大に向け勧誘活動を進めていく必要がある。そのため、令和元年度開催の「ピッチイベントおおいた」のように、活動が特定

の地域に偏ることなく、九州各県でのイベント実施および拠点形成に努め、各地域での草の根運動的な普及活動を図る必要がある。そのためにも、各県庁、国の道路・河川・港湾などの各事務所および地域の大学・高専の学識経験者らに参加協力を求めるとともに、既存の道路メンテナンス会議や地域のボランティア組織との連携を強化推進していく必要がある。加えて、継続的な活動展開のためには、安定的な財源確保が最大の課題でもある。

## 5. おわりに

少子高齢化時代を迎え、国および地方自治体の財政状態及び人材不足がますます厳しさを増す中、インフラマネジメントに対する国民一人一人の理解を得て、産官学民の連携によるインフラマネジメントに取り組むという国民会議の精神がきわめて適切かつ重要であるということは誰もが認めるところである。九州は、これまで歴史的にも産官学の連携による学協会活動や市民活動が活発に展開してきたという風土がある。是非とも、九州の産官学民の連携をより一層強化し、インフラマネジメントを通じて安全・安心で、豊かな未来を子孫に残せるよう、各位のご理解、ご協力を切望するものである。

最後に、インフラメンテナンス国民会議九州フォーラムの活動に参加、協力を戴いた、企画委員をはじめとする会員の方々、そして公益事業の一環として助成金をご提供戴いた、(一社)九州建設技術管理協会および(一社)九州地域づくり協会に対し、深甚ある謝意を表する次第である。

### 参考文献

1) 九州フォーラム HP より

<https://www.imkyushu.jp/tec/index.html>

2) インフラメンテナンス国民会議 HP より

[https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/im/about/kaiin\\_list.html](https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/im/about/kaiin_list.html) (2022.4)